

ボクシング界「元気づける」

袴田死刑囚再審へ
名誉ライセンス

無実を訴えている元プロボクサー袴田敏久(46)に、「日本ボクシングコミッション」(JBC)から「名誉ライセンス」が贈られる。日本のプロボクシングの唯一の統括団体が、冤罪事件の支援に乗り出すのは前例がない。ボクシング界を挙げ、再審開始を働きかける。

「無罪を勝ち取るために戦うのは、ボクサーが困難や苦勞と戦うのと同じ。本当に無罪なら、ボクシング



袴田事件 1986年(現静岡市)
水市(現静岡市)のみ製造会社専務宅一家4人の刺殺体が見つか
り、従業員の袴田敏久が逮捕された。公判で無罪

を求めたが、80年に死刑が確定。再審請求は静岡地裁、東京高裁で棄却され、現在最高裁に特別抗告中。弁護団は「公判に見つかった衣類などの証拠はねつ

造」と主張している。

に長く、長くかかっていたはずの人だ。名誉ライセンスか、それに類するものを検討している。

東京・後楽園ホールで二十七日行われた記者会見で、JBCの安河内剛事務局長がきっぱりと語った。

名誉ライセンスの対象は、元王者らが一般的、冤罪事件では異例だが、米国では約二十年の服役の後に無罪になった「ハリケーン」ことルビン・カーターさんに名誉チャンピオンベルトが贈られた例がある。

元世界王者らと会見に臨み、「JBCもできる限り協力したい」と話す安河内事務局長(右から2人目)＝27日、東京都文京区で



労働支援が世界的に広がっていることも追い風。十二月のJBC理事会で正式決定を待つ。

に長く、長くかかっていたはずの人だ。名誉ライセンスか、それに類するものを検討している。

一度もなく、一年に十九試合したことも、元トレーナーは「タフで打たれ強い選手。練習も頑張るタイプ」

と評している。

袴田敏久は元日本フェザー級六位、静岡県蒲掛町(現浜松市)で生まれ、中学卒業後にボクシングを始め、アマチュアでは団体にも出場した。プロ転向後の戦績は二十九戦十六勝(二KO)十敗三分。KO負けは一度もなく、一年に十九試合したことも、元トレーナーは「タフで打たれ強い選手。練習も頑張るタイプ」

と評している。

JBCが来月正式決定「情熱を注いだ証し」

プ」と振る返る。

逮捕されたのは体調を崩して引退し、カムバックに向けてトレーニングしているときだった。東京拘留所でも、つるしたちろきんをパンチングボールに見立てたとき、ボクシングへの思いを語っていたという。ボクシング界では昨年、JBC会長でつくる「東日本ボクシング協会」を中心に、支援活動が再燃。事件の背景にボクサーへの偏見があることを明らかにし、元王者野野矢太朗さんと現王者イークルさんなど、数組のスパリ

長期拘禁で精神的に不安定になっていた袴田死刑囚だが、昨年十一月、三年八カ月ぶりに純秀子さん(68)の面会に応じた。今年六月には、同協会支援委員会の新田渉委員長が、ボクシング関係者として二十七年ぶりに面会。袴田死刑囚は「あんたは打たれ強い顔をしている。おれも打たれ強かった。あんたはパンチもあつたはずだ」などと語ったという。

現在は日本プロボクシング協会(JPBA)、原田政伸会長もバックアップ。

弁護団は特別抗告理由補充書や最終意見書を最高裁に出し、来年三月までに結論を出すよう求める方針。名誉ライセンスは来年一月二十四日、後楽園ホールで開く「袴田敏久支援チャリティボクシング」で袴田死刑囚の関係者に贈られる。既に現・元王者十人、ボクサーが参加を承諾しており、ボクシング教室や袴田支援活動が再燃。事件の背景にボクサーへの偏見があることを明らかにし、元王者野野矢太朗さんと現王者イークルさんなど、数組のスパリ